

## $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI 動注投与による転移性肝癌に対する 肝動注化学療法の治療効果予測

佐口 徹\*      小泉 潔\*      井上 真吾\*      垣内 秀雄\*\*  
阿部 公彦\*\*\*      勝又 健次\*\*\*\*      葦沢 龍人\*\*\*\*      山本啓一郎\*\*\*\*\*

\* 東京医科大学八王子医療センター放射線科

\*\* 板橋中央病院放射線科

\*\*\* 東京医科大学放射線科

\*\*\*\* 東京医科大学八王子医療センター消化器外科

要旨 肝動注リザーバーを留置した転移性肝癌患者 11 例を対象に，肝動注化学療法治療前に  $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI を動注し SPECT を施行し，集積程度と治療効果について検討した．SPECT の早期像と後期像を撮像し，定量指標として early ratio (ER), delayed ratio (DR), washout rate (WR), retention index (RI) を算出した．治療効果判定は肝動注化学療法治療前後の CT より行い，有効，不変，悪化の各群に分類した．有効群では  $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI の ER, DR は悪化群と比べ高値を示し，明らかな関連性を示した．WR, RI は各群間での関連性は乏しかった．転移性肝癌に対する  $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI 動注 SPECT を用いた ER, DR の評価は，肝動注化学療法の治療効果予測に有用であると考えられた．

(核医学 37: 29-33, 2000)